

ゆるめま

vol. 17 2009

- ▶ 理事長のあいさつ
- ▶ 健康ひろば「冬になると起こりやすい病気」
- ▶ 雨宮先生の講演
- ▶ 均等・両立推進企業表彰
- ▶ 地域医療連携室
- ▶ 第4回 院内学会開催
- ▶ 11月の年中行事【文化祭】
- ▶ 編集後記



病院理念

- 信頼される医療・保健・福祉を提供し、地域の健康増進に貢献する

基本方針

- 良質な医療を提供するため、心と技術を磨く努力を惜しみません
- 患者の権利、尊厳、安全を重視した医療を提供いたします
- 医療、福祉と連携を持ち、急性期医療から在宅医療まで、全員参加で取り組みます

● 理事長のあいさつ

しだいに秋深くなり、樹木の紅葉が待たれる頃となりました。民主党に政権交代し、3ヶ月が過ぎようとしています。結果が出るまでには、まだまだ時間がかかると思われますが、閉塞感で今まで全く見えてこなかったものが、新しい風が吹くことによって少しずつ見えてきたように思えます。

民主党のマニフェストには、「医療崩壊を食い止め、国民に質の高い医療サービスを提供する」と目標を掲げています。まず、前政権下で毎年2200億円削減を行っていた医療費削減は廃止となり少しほっとしていますが、難題山積みの医療界の舵取りを、長妻厚生労働大臣に頑張っていただきたいと思えます。

そして、実際に医療の現場で働くものが、疲弊した精神状態に陥らず、夢と希望のもてる医療制度にぜひとも改善されるよう期待したいものです。来年の診療報酬改定に向けての動きに注目していきたいと考えます。

今年は、予想どおり新型インフルエンザの流行がはじまり、殆どの患者さまは軽症で治癒されていますが、一部免疫力のない方で重症化し、死亡例も出ていることより、ワクチンの十分な供給が待たれます。しかしながら現状では、医療従事者に対してもワクチンの供給は不足しており、次に基礎疾患を持つ優先順位の患者さまに提供するワクチンの数にも限りがあり、国

からの供給量が今のところ不確実です。したがって、予防対策を徹底して行うことが重要となります。基本的なうがい、手洗い、マスク着用をこころがけ、特に手洗いは指や爪の間だけでなく、手首まで約30秒位かけてしっかり洗うことが大切です。規則正しい生活と栄養管理をおこなうことも大切です。抗ウイルス薬のタミフルやリレンザが有効ですが、発症から48時間以内に使わないと効果がないので、急な発熱や咳などインフルエンザを疑う症状が出たときは、慌てずに医療機関を受診することが大事です。

日本医療機能評価機構認定の更新が10月に認められました。継続して良質な医療サービスを提供していくことに職員一丸となって努めてまいります。

理事長 森 伊津子



日本医療機能評価機構による
病院機能評価Ver5.0継続審査が認定されました。

体の安心
情報板

健康ひろば

第6回
テーマ

「冬になると起こりやすい病気」

冬に発症しやすい病気として、脳卒中・心筋梗塞があげられます。浴室やトイレで倒れているところを発見され、救急車で運ばれる患者様も少なくありません。これらの原因の1つは、低温そのもの、あるいは室内と室外の気温差が刺激になって、脳や心臓の血管が収縮することで血圧が急上昇したり、血液の流れが悪くなったりするためです。

家庭の中でも温度変化が起こりやすい「場所」と「対策」は

場所	脱衣所から浴室に入った時	室内から 戸外へ出た時	夜中、布団から出て トイレに行った時
対策	<ul style="list-style-type: none"> 前もって浴室の壁にお湯をかけておく。 浴槽のふたを開けておき、浴室内の温度が上昇してから入る。 	<ul style="list-style-type: none"> 戸外へ出る前には暖房を消し、室内の温度を徐々に外気温と近づける。 	<ul style="list-style-type: none"> 布団から出たら上着を羽織る。 トイレ内に暖房をつけ、暖めておく。



冬に起こりやすい病気の危険な場所として、「浴室」「戸外へ出た時」「トイレ」を例にしました。
特に入浴前には、家族誰かにも一声かける習慣をつけましょう。

● 接遇トレーナー 雨宮先生の講演



当法人では、挨拶の仕方、患者様への対応の仕方、言葉づかい、身だしなみ、電話応対など接遇マナーを職員ひとりひとりが身につけ、患者様により良い医療・介護サービスが提供できるよう委員会を設置し接遇教育に取り組んでいます。

10月には、2回目となります接遇トレーナー・交流分析士 雨宮恵美先生をお招きした接遇研修を行いました。日々

の取り組みがどのような意味を持っているのかを再認識することができ、又、実際の場面において自分達では気づかなかった所をご指導して頂きました。

今後も患者様のみならず当法人を訪れた方々全てに対して気持ちの良い対応ができる様、委員会を中心に職員一丸となって接遇改善に取り組んでいきたいと思ひます。

● 均等・両立推進企業表彰

当院では15年前に開設した院内託児所を現在では24時間体制で運営しているほか、子供が3歳になるまで育児休業を取得できるなど、積極的に子育て支援に取り組んでいます。これらの点が評価され、仕事と育児の両立を目指す労働者を支援する企業や団体などを顕彰する「均等・両立推進企業表彰」でファミリー・フレンドリー企業部門 香川労働局長優秀賞を受賞しました。

高松サポートであった表彰式では表彰状などを受け取り、浜田幸夫局長からは「先駆的な取り組みは他の企業などに対して模範となっている」とお言葉を頂きました。



● 地域医療連携室



当院は、患者様中心の医療・保健・福祉が提供できるように、『香川シームレスケア研究会』に参加し、質の高い地域連携に努めています。2ヶ月に一回開催される香川シームレスケア研究会では、各機関から様々な職種のスタッフが集まり、地域連携に必要な情報の共有や相互理解・協力等についての検討や勉強会が行われます。

今後も、患者様・利用者様・そのご家族の方々に安心してご利用頂くために、継続して研究会に参加し、シームレスな連携が行えるように努めてまいります。

● 第4回 院内学会開催

平成21年9月～10月の6日間に渡り、第4回目の院内学会を開催しました。全スタッフが日頃の業務を通して研究テーマを決め、その取り組み内容を発表しました。今回は、計61演題の発表を全スタッフが聞く事で、他部署の業務内容の把握ができ、また、4回目ということで、活発な意見交換となりました。この中より、最優秀賞1演題、優秀賞2演題が選ばれ、朝礼にて表彰されました。

今回の学会で研究した事や他部署の取り組みを理解した上で、これからもチーム医療でよりよい患者サービスを行っていききたいと思います。



最優秀賞

演題 『リハビリテーション科における治療成績』
～Barsel Indexに着目して～
リハビリテーション科 上原 篤史、熊代 優香

優秀賞

演題 『もう一度食べたいあの味』 演題 『喫食率向上へのアプローチ』
グループホームこんびら 栄養科・リハビリテーション科
上山 千佳、大平 由姫、近石 喜代巳 野島 さとみ、福崎 美里、松川 理恵子

● 11月の年中行事【文化祭】

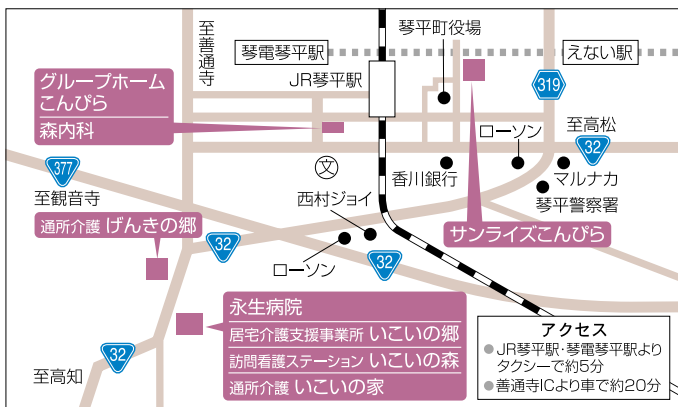


芸術の秋にちなんで外来待合室に、入院・外来患者さま、通所介護・小規模多機能型居宅介護・グループホームの利用者さま、託児所児童、病院スタッフなど1歳から100歳までの方々の作品を展示いたしました。ひとつひとつの作品には作成した人の想いやパワーが感じられ、楽しませていただきました。



【編集後記】

日本医療機能評価受審を契機に発行しました広報誌「ゆるぬき」も、今回で17号となりました。当法人の地域に根ざした医療・介護サービスに対する取り組みについて、地域の皆様に少なからず発信できたかと思えます。お陰さまで10月に日本医療機能評価更新が認証されました。今後広報誌「ゆるぬき」もますますバージョンアップしたものをお届けできるよう頑張りますので、よろしくお願い致します。



医療法人 圭良会

● 永生病院	香川県仲多度郡まんのう町買田221-3 Tel 0877-73-3300
● いこいの森 (訪問看護ステーション)	Tel 0877-73-3700
● いこいの家 (通所介護)	Tel 0877-73-3718
● いこいの郷 (居宅介護支援事業所)	Tel 0877-73-3655
● げんきの郷 (通所介護)	仲多度郡まんのう町買田102-1 Tel 0877-58-8811
● 森内科	香川県仲多度郡琴平町1167 Tel 0877-73-4188
● グループホームこんびら (認知症高齢者グループホーム)	Tel 0877-73-0811
● サンライズこんびら (小規模多機能型居宅介護)	香川県仲多度郡琴平町榎井字池田451番地1 Tel 0877-58-8600

永生病院 130床(一般病棟 40床・療養型病棟 90床)

永生病院広報誌「ゆるぬき」第17号
発行元：医療法人圭良会 永生病院
編集者：医療サービス改善委員会
住所：〒769-0311 仲多度郡まんのう町買田221-3
TEL:0877-73-3300
FAX:0877-73-3202
永生病院のホームページ <http://www.eisei-hp.or.jp/>
eメールでのお問い合わせは keiryokai@eisei-hp.or.jp
発行年月日:平成21年11月10日